

令和2年6月25日

関係各位

課外活動再開における新型コロナウイルス 感染症予防対策ガイドライン

学生部長 伊東 明子

－ はじめに－

「静岡県新型コロナウイルス感染症対策」、「厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」、及び「新型コロナウイルス感染拡大防止のための常葉大学・短大部における行動指針」に基づき、本ガイドラインの内容をもとに、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、課外活動を再開します。なお、この取り扱いについては、当面の対応指針であり、日々状況が変化しているため、今後変更が生じる場合は、国および県の通知等に基づき、適宜対応いたします。

1. 感染防止の基本的事項【人と人との3密（密閉・密集・密接）の回避】

- ・人と人との接触を避け、対人距離（できるだけ2 m以上、最小1 m）を確保する。
- ・対人距離が確保できない場合は、人数制限等を実施する。
- ・マスクの着用（運動以外の状況下）。
- ・施設の換気（換気装置稼働、2つの窓（特に対面）を同時に開ける等）
- ・感染防止のため集合場所や施設内等において、十分な間隔を確保する。

2. 症状のある学生の制限

- ・自宅等で体温チェックを実施し、平熱より1℃程度高い場合は活動を控える。
- ・発熱や軽度の咳・咽頭痛などの症状がある人は活動を控える。
- ・万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取り扱いに十分注意しながら、部員名簿を適正に管理する。

3. 参加者氏名及び参加人数の確認

- ・感染者が発生した場合に備えて、活動時における参加者の氏名を確認しておく。

4. 消毒等

- ・施設内及び入口の手指消毒の設備（石鹸による手洗い、手指消毒用アルコール等）を設置する。
- ・利用する場所のうち、特に多くの学生が手を触れる箇所は、消毒液（消毒用エタノール等）をペーパータオル等に含ませて消毒をする。
- ・用具など、基本個人で持参することを義務付け、他人と共用する物品や頻繁に触れる箇所を最低限にする工夫をする。（共用物は適宜消毒する）
- ・ユニホームやビブス等はこまめに洗濯をする。

5. トイレ【感染リスクが比較的高いと考えられる】

- ・不特定多数が接触する場所（ドアノブ、トイレの便座、便座のフタ、トイレットペーパーのフタ、水洗レバーなど）については適宜消毒を行う。
- ・トイレの蓋は閉めて流す。
- ・タオル、ハンカチは個人のものを使用する。

6. 更衣室・休憩スペース【感染リスクが比較的高いと考えられる】

- ・使用の際は、入退室の前後に手洗いする。
- ・一度に利用する人数を減らし、対面で会話や飲食をしないようにする。
- ・常時換気することに努める。
- ・共有する物品（机、椅子等）は定期的に消毒する。
- ・ロッカーは、間隔を空けて利用する。（密を避ける）
- ・シャワールーム等の利用時における人と人との接触を避けるための工夫をする。

7. ゴミ捨て

- ・鼻水、唾液などの付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛る。
- ・ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用する。
- ・マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗う。

その他 <熱中症対策>

「熱中症」は、高温多湿な環境に長くいることで、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指す。屋外だけでなく室内で何もしていないときでも発症し、場合によっては死亡することもある。気温の高い日が続くこれからの時期に備え、一人ひとりが熱中症の対策に万全を期すことが重要である。

熱中症予防の効果を上げていくためにエアコンを稼働させることが不可欠であるが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、定期的に換気を行うことが必要である。

（考えられる対応の例）

1. エアコン稼働時も1時間に5～10分程度の換気をする（2時間に1回10分の換気をするよりも、1時間に1回5分の換気をした方が効果は高い）。その日の気温や湿度等の条件によっては、少し窓を開けたままエアコンを稼働させるなど、空気の通り道を作るようにする。
2. 窓が1か所しかない部屋の場合、窓を開けて窓に向けて扇風機を使うと換気ができる。
3. 暑い場所でマスクをすることで、蒸れたり多量に汗をかいたりして体調が悪くなった場合には、周囲との距離を十分にとった上で一旦マスクを外し、様子を見る。（マスクを頻繁に触ることによるウイルスの付着を防ぐことにもつながる）

課外活動中に体調がすぐれない者が出た場合は、直ちに学生課へ電話連絡をする。時間外の場合は各キャンパスで指定した連絡先に連絡をする。

以上